

いつまでも野沢温泉村～小さな村が輝き続けるために～

野沢温泉村 幼保小中一貫教育・高校連携教育

～ふるさと野沢温泉村を心に刻み
心を世界に拓き 心豊かな人間性を
育む教育の創造～

地域の
特色ある
活動

長野県野沢温泉村教育委員会

1 はじめに

野沢温泉村は、長野県の北部に位置し、村の中心部の役場の経緯度、北緯 36° 55′ 12″、東経 138° 27′、海拔 571m、総面積は 58.41 m²、平成 29 年 8 月現在の人口 3,650 人の小さな村です。

本村が「湯山村」として歴史に現れてくるのは、鎌倉時代中期の文永 9 年（1272）が最初で、江戸時代初期には 24 軒もの宿屋があった等記録に記されています。本村の温泉は、順徳天皇（1197～1242）によって、天皇が入る温泉の三御湯（野沢温泉、別所温泉、秋保温泉）の一つに選ばれ、当霊泉を都まで運ばせ、入浴するとたちまち病気が平癒した事で知られるほどの霊泉でもあったのです。

一方で、明治 45 年（1912）に、日本に初めてスキーが伝わると同時に、本村でも早々にスキーが紹介され、村民と行政が一体となった温泉とスキーを中心にした村づくりが始まりました。1998 年、第 18 回冬季オリンピック長野大会を開催し、国際的なスキー場としての発展を遂げ、現在、外国からのスキー客で賑わうスキー場となっています。

しかし、少子・人口減少社会の到来と急速に進む村の国際化の中で、少子・人口減少社会を力強く牽引する人材、国際化に応じたグローバルリーダー、ふるさとの伝統文化を受け継ぐ次世代の育成等々、未来の村を担う人材育成が急務となっています。

2 新しい教育の創造に寄せて

野沢温泉村は、温泉と雪の恵を受け、深山のふところにつつまれるという自然環境の中にあり、四季は鮮烈なまでの変化を見せ、それが人々の内面に深くかかわり、情操、耐

性、意志、創造、互助の精神を呼びおこし、村民の気風を生み出しています。

子供達は、この環境の中にあって家族及び地域社会の人々の愛情をたっぷり受けながら生活しています。ここで、子供達の内に本来的に形成されつつある良さを見極め、個性に磨きをかけ、たくましく、心豊かな人間性が育まれていくよう、今まで以上に地域社会が深くかかわる野沢温泉村の新しい教育を構築しました。

3 野沢温泉村 幼保小中学校一貫教育・高校連携教育

2013 年 4 月 1 日、小さな村が輝き続けるために、村民一人ひとりが共に学んで明るい未来を切り開く「学びの村、のぞわおんせん」を目指して、野沢温泉村「幼保小中学校一貫教育・高校連携教育」を柱に、野沢温泉学園「のぞわこども園 野沢温泉小学校 野沢温泉中学校」（施設分離型一貫教育）を開園しました。

4 野沢温泉村 幼保小中一貫教育・高校連携教育のねらい

村の未来を担う子供達の育成のため、学園での 12 年間を中心に、子供達が村で生活する 0 歳から 18 歳までの成長を見通した、計画的で質の高い保育や教育により、確かな学力と豊かな心を培います。

また、丁寧な情報の共有により、子供達の発達課題に対して適切できめ細かな対応をしながら、さらに学園・家庭・地域が共同で、今まで以上に連携して、野沢温泉ならではの特色ある教育、子供達の個性が輝き、子供達と先生が育ち合う学園づくりを推進します。

5 野沢温泉学園の教育理念

◎ふるさと野沢温泉村を心に刻み 心を世界に拓き 心豊かな人間性を育む教育の実現

6 願う子ども像

- こども園～小学校低学年
豊かな自然の中で好んで体を動かし、友だちを呼び込んで遊びをつくり、学びを楽しんでいる子ども
- 小学校中学年～高学年
物や事や人に触れて、興味、関心を呼びおこし、自ら研究し、友と共に学ぶ楽しさや喜びを見いだしている子ども
- 中学校
情操の深まりから自然や人の生き方に心を動かし、友と共に深く学び、夢や希望をふくらませていく子ども

7 地域の特色を活かした教育の推進

(1) 日々の保育と教科学習「学び合い学習」の充実

○ベアや小集団による「遊びや学び合い学習」の推進を図り、子供同士が互いに多様性を認め合い、より良い人間関係を育て合いながら、遊びや知識・技能を習得し、それらを活用して思考力・判断力・表現力・課題解決力等々を育て、基礎・基本の定着と学力の向上を図ります。

(2) 英語遊び・英語学習の充実（2010年文部科学省教育課程特例校（英語）の認可

- こども園から小学校全学年に英語遊び、英語学習を導入し、幼保小中の一貫した課題解決型英語学習カリキュラムを作成し、英語遊びや英語学習を推進し、英語会話を通しコミュニケーション能力の向上、国際感覚を備えた子供の育成を図ります。
- 台湾の小学校とのスカイプによる英語での交流学习を推進します。
- 英語教育アドバイザーとして、東京外国語大学大学院 高島英幸教授を招聘し、課題解決型の英語学習の充実に取り組んでいます。

(3) スキー学習の推進

○スキー産業を基幹産業とする本村、将来のスキー産業を担う人材育成の一貫として、こども園から小中学校を通して12年

間、一貫したスキー教育を推進します。

- 2013年文部科学省教育課程特例校の認可を受け、小中学校に新たにスキー科を設置し、年間30時間のスキー学習を地域と一体となって実施し、生涯にわたってスキーを楽しむ子供の育成を推進します。

(4) 交流体験学習の充実

- 学園内（こども園・小・中学校間）の相互交流を推進します。学習・音楽会・運動会・文化祭等々の行事に相互に参加し相互交流を推進します。
- 村内や他地域、世界との相互交流を推進します。千葉県御宿町の中学1年生との海山の交流、オーストリアの中学生とのホームステイによる相互交流を推進します。

(5) ふるさと学習の充実

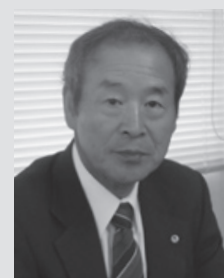
- 村の豊かな自然や伝統文化、村の産業等々から、村の良さや課題を学んだり祭りや行事に進んで参加したり村の未来を担う村民としての生き方を学び、村に愛着と誇りを抱く心を育みます。

(6) ジョイント期の指導の充実

- 家庭～こども園、年長～小学校1年、小学校6年～中学校1年、中学校3年～高校1年の接続期を、村ではジョイント期と称して、4回のジョイント期を家庭、園、学校間相互の連携ときめ細かな指導により、施設分離型一貫教育の課題を克服し、スムーズな入園、入学を実現し、より充実した一貫教育・高校連携教育を推進します。

(7) 地域高校との連携教育の充実

- 平成21年から始まった地域高校との幼保小中連携英語教育の研究実践を活かし、より確かな英語教育、英語学習指導の改善を推進します。
- 中学校と高校の教師同士の交流授業、全教科合同教科会の実施、高校生が中学生の学習支援をする学習チューター活動の充実等々を推進します。



教育長
岩上芳宗